
学校給食・食育分科会

I 研究のあゆみ

4月23日(火)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月22日(月)	研究内容の検討(第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【守山特別支援学校】
8月27日(火)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

今年度、学校給食・食育分科会では、「バランスのよい食事」「食への関心を高める」「食の自己管理能力の形成」「食文化の継承」「味わって食べること」等をテーマとした実践が7本報告された。

子どもの食への興味・関心を高める手立てや、子どもが食に関する課題を自分事として捉えることができるような手立て、子どもが主体的に課題解決に向けて学習できるように工夫された手立て等、ICTの活用だけでなく、体験活動を効果的に取り入れた食に関する指導が行われていた。また、給食時間を利用したり、掲示や放送を活用したりして日常的な活動を並行して行うことで、子どもの学習に広がりや深まりをもたせる工夫も紹介された。

意見交流では、「毎日の食事はどうやって決めているか」をテーマに、参加者が食の好みや季節感等、日頃の食事の決め方を紹介し合い、楽しい雰囲気でも共有することができた。

III 今後に残された課題

- 実践を広めたり、保護者との連携を図ったりして、より効果的な学習を進めていくためにも、子どもが自分の食生活の中から、課題を設定する場面を増やすことが求められる。
- これまでより、更なる広がりや深まりのある学習にするために、ICTの活用だけでなく、子どもが本物にふれる体験活動を取り入れることが効果的である。
- 更なる食育の充実に向け、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの視点で活動することが望まれる。